

2 科学技術外交に期待される方向性と具体策

(2)外交上重要性の高いパートナー諸国や新興国等との協力関係強化

方向性

- 外交上重要性の高いパートナー諸国(ODA卒業国を含む)とは、先端科学技術やイノベーションを基軸にした関係構築を戦略的に進める。
- 新興国等との協力関係強化の手段として、科学技術イノベーションを通じた協力を活用することを外交の新機軸とする。
- 政府レベルでの協力関係構築が困難な場合に、科学技術分野の研究者等を介したトラック1.5やトラック2の活用による信頼醸成を図る。

具体策

- －外交上重要性が高いパートナー諸国との戦略的な共同研究開発を推進。
- －日本企業の海外展開支援とともに、新興国等のイノベーション人材育成や科学技術イノベーションに関する政策立案能力向上を積極的に支援(ODAの配分見直し、SATREPSの下での研究成果の社会実装促進・イノベーション人材育成面での産業界との連携強化、同窓生のネットワーク化による人脈強化なども含む)。
- －ODAとの連携・活用を通じた新興国・途上国との協力強化、イノベーションを重視した新興国やODA卒業国向けの戦略的共同プロジェクト立ち上げ。
- －人材育成協力(工科系大学支援など)を強化し、次世代のネットワークを構築。
- －トラック2への活用も視野に入れ、科学技術人材を科学技術外交のリソース・パーソンとして活用。

我が国のイノベーション推進にも寄与するよう、パートナー諸国との協力を戦略的に推進。

新興国等の長期的・持続的な経済発展を科学技術イノベーション協力を通じて促し、日本企業の海外展開支援につなげるとともに、ODA卒業後も視野に入れた関係を構築

科学技術コミュニティ・レベルでの交流を通じた信頼醸成、情報収集・分析、ネットワーク構築

3 科学技術外交の効果的推進に向けた基盤強化・人材育成

(1) 外交政策の立案・実施における科学的知見の活用強化

- －外務大臣科学技術顧問を試行的に設置する。
- －関係府省・機関・学識経験者・産業界との連携を強化するための国内・国外のネットワークを作る。
(科学技術顧問をハブとするネットワークにより、科学技術の専門的知見、内外の最新の動向などの専門的知見を集約して外交政策に反映させ、トップ外交、ハイレベル国際会議の機会、首脳・外相レベルの各種政策スピーチなどに活かす。)
- －在外公館の科学技術面での機能強化を図る。
(本省・他公館との情報共有・連携を深める。科学技術に関する研修機会を拡充する。)

(2) 科学技術外交を支える人材の育成

- －中堅・若手研究者の外交政策立案への参画を可能とする仕組みを構築する。
 - ①フェロシップ制度を通じ、外務省内で所管政策課題の解決に科学技術の知見を要する課や在外公館へ中堅・若手研究者を送り込む。
 - ②外務大臣科学技術顧問に対するサポートとして顧問の補佐を務める。
 - ③国際機関やマルチの国際研究機構に送り込む。

(3) 対外発信・ネットワークの強化

- －「科学技術イノベーションを通じてグローバルな諸課題の解決を主導し、望ましい国際環境の実現をはかる」とのメッセージを国際社会に対して積極的に発信する。
国際的に発信力の高い場で、首相・外相レベルでの政策スピーチを通じ、日本の科学技術外交の理念、目的、具体策を世界に対して発信。
- －知的交流を推進し、科学技術外交ネットワークを強化する。(国際交流基金の交流事業なども活用)
- －科学技術外交推進専門家交流(科学者派遣)の拡充や内外の展示施設・機関(例:ジャパン・ハウス)との連携を図り、我が国の科学技術の対外発信を強化する。(SATREPSをはじめとする日本の科学技術外交の成果も効果的に発信)